

「グローバル化とJASAへの期待」に関するアンケート報告

隔年ごとに実施しておりますグローバル化とJASAへの期待に関するアンケートにつきましてご協力を賜りました事、御礼を申し上げます。皆様からのアンケート結果を抜粋し報告させていただきます。

●グローバル化の対象として関心のある地域・国

前回調査と期待する地域・国のランキングは変わらず。

中国、ベトナムへの関心は他国に比べて依然として大きい事がわかった。順位は変わらないが北米への関心は3年連続で上向き傾向にある。今回初調査の南米への興味は8%とランク外だった。(下表)

●売上規模別 関心のある地域・国

売上30億以上、30億未満の企業で調査したところ、30億以上は市場として中国、タイ、北米を見ており、30億未満はオフショア先として中国、台湾、ベトナムに期待している事がわかった。

従業員数別でも売り上げ規模と同様の傾向であった。

●事業別 関心のある地域・国

事業別(ソフトウェア開発41社、電子・電機メーカー・商社8社)で調査したところ、メーカー・商社の9割がグローバル化への取り

組みをしており、ソフトウェア系は6割に留まった。

メーカー・商社は主に中国、タイ、欧州、北米に関心があり、ソフトウェアは主に中国、台湾、ベトナム、北米に関心がある。

※ソフトウェア開発系40%以上、電子・電気メー

売上規模別 関心のある地域・国



事業別 関心のある地域・国



地域・国	回答割合	前回順位	(複数回答あり)
1 ベトナム	56%	1 (→)	依然としてオフショア開発、調達として展開している企業が多い
2 中国	54%	2 (→)	前回(2015年)調査の際には中国から他の地域へ事業を移動した企業が多かったが、今回調査では少なく、移動は落ち着いたとみられる。人件費の高騰の影響が見られたせいか、オフショアとしての期待よりも市場としての期待の方が高まっている。
3 北米	44%	3 (→)	市場としての魅力は相変わらず高い。進出している企業には為替の影響も出ている。
4 台湾	42%	4 (→)	市場、調達両方の期待がある。
5 インド	40%	5 (→)	オフショア開発から市場としての期待に変わりつつある。

第8回「JASAグローバルフォーラム2017開催報告」

～デジタル革命時代の取組を考える（各国のIoT活用方法を学ぶ）～

2017年11月16日(木)ET2017の併催セミナーとして今回で8回目の開催となるJASAグローバルフォーラム2017がパシフィコ横浜で開催されました。本フォーラムはJASA国際委員会による海外マーケットの状況や海外企業との協業をテーマとしたセッションで、今回は【デジタル革命時代の取組を考える】と題しまして、先進国であるEU,米国をはじめとする各地域での課題に対しIoTをどのように活用しているのか、



講演風景

カー・商社70%以上を抽出し内容調査

●グローバル化の課題

- 1 コミュニケーション能力(発信力、計聴力)
- 2 語学力
- 3 異文化理解力

上位3項目共、前回の調査から変化は無く課題として大きく占めている。今回初調査のマネジメント力は4位につけており課題があるとみられる。

●JASAへの期待

海外企業との交流の場の提供支援、グローバル化をテーマとした講演の期待が高い。過去から興味のある中国、ベトナムに加えて欧米の情報提供のリクエストは多く見られた。オフショア、市場として見た場合の両方の情報収集の期待が高まっている。

今回の調査では、グローバル化を考えた際、オフショアから市場として展開したいという変化など期待が変わりつつある状況がみられました。JASAへの期待もオフショア以外の視点で考えたい意見が多かったことから、11月16日に開催したグローバルフォーラムのテーマは～デジタル革命時代の取組を考える(各国のIoT活用方法を学ぶ)～というテーマとしました。次にグローバルフォーラムの開催報告を掲載します。

自社ではどう取り組むべきなのかを各国の事情に則して講演していただいた後、会場からの質問に対し講演者に議論していただくパネルディスカッションを行いました。

以下に概要を報告いたします。

●JASA国際委員会 委員長挨拶

廣田 豊氏/TDIプロダクトソリューション(株)代表取締役

本年はEUの産業デジタル化の動向を基調講演として、米国、ドイツ、台湾の事例を講演していただき、ITの進化やモノのデジタル化が進んだデジタル革命時代にどのように対応するかのヒントになればと思えますとの挨拶の後、様々な統計データを引用して、世界の動向を説明した。

●基調講演

「EU及び欧州主要国の産業デジタル化への取り組み」-デジタル単一市場の構築とIoT活用とともに-

田中 晋氏/日本貿易振興機構(ジェトロ)海外調査部欧州ロシアCIS課 課長

欧州2020の経済成長戦略と5大目標を説明後、欧州委員会の10の優先課題の一つ「接続されたデジタル単一市場(DSM:Digital Single Market)の創設」に関して言及され、DSMで年間4150億ユーロの経済効果の創出を目指す。これはEU加盟国間で分断されているデジタル市場を統合し、ヒト、モノ、資本、サービスに加え、データの自由移動を実現することで莫大な市場を創出するものでEU内のビジネスチャンスは大幅に拡大するというもの。具体的に16の施策が推進されている。例えば電子商取引のルールづくりや消費者保護、個人情報保護、サイバーセキュリティ、標準化と相互運用などがある。例として電子商取引の促進や個人データの自由移動に言及した。

その後、EUのIoT市場が2020年には3.2倍の拡大が期待されている中、各国の



廣田 豊委員長



田中 晋氏



村田 聡一郎氏

具体的な動向をドイツ、フランス、英国、など17か国とスイスについて説明があった。

●ドイツの事例

「インダストリー4.0～デジタル=IT+IoTが引き起こす第4次産業革命にどう立ち向かうか～」

村田 聡一郎氏/SAPジャパン(株)インダストリークラウド事業本部 IoT/IR4ディレクター

時価総額ではドイツ最大の企業であり、欧州最大のソフトウェア会社であるSAPはインダストリー4.0の主要プレーヤーであり、旗振り役である。コマツやシーメンスやコンチネンタルなどとの具体的なビジネス事例を紹介した。印象的だったことは、ドイツはスマート工場だけではなくその前後まで一貫通貫に「つなぐ」ことにより顧客に対するトータル価値の向上を提案するインダストリー4.0を推進しているとのことと、又、日本の製造業に強調したいのは第4次産業革命の時代では主戦場は「工場の外」にあるとの言葉であった。

●台湾の事例

「台湾発のIoT技術が日本の製造業にもたらす新規市場開拓の可能性

変化の激しいIoT時代、日本の製造業が世界で勝ち残るために必要な要素とは」

マイク小池氏/アドバンテック(株)社長兼日本地区最高責任者

世界も日本もよくわかっている産業用PCのリーディングカンパニーのアドバンテック社が単なるPCメーカーからIoTソリューションカンパニーにいち早く変貌を遂げ、様々な提案するサービスを紹介。

ワールドワイドに事業展開をしており、23か国94都市に拠点を構え、自社工場ではスマート工場の実証実験をし、実際に工



マイク小池氏 廣川 裕司氏

場のスマート化を体験できる場を提供している。台湾でいち早くIoTに目覚めた企業として、日本の製造業をより強くするための提案や活動が紹介された。

●米国の事例

米国から始まったオープンソースソフトウェア第3の波 IoTとBigDataの活用
が支える「次世代データプラットフォーム」
廣川 裕司氏／ホートンワークスジャパン
(株) 執行役員社長

IoT時代の大きな課題BigData、特に非構造データの分析手段として、オープンソースソフトウェア(OSS)を使い、効率的に高信頼に提供しているホートワークス社を紹介。Linuxを始めとするOSSの優位性を紹介し、データ分析プラットフォームにOSSを採用し、基本になるOSSのコミッティーの主要メンバーとして活動することにより、改善のスピードと信頼性の確保を担保することができることを強調。ホートワークス社の

提案するOSSを基本とする次世代Bigdataプラットフォームが各社で採用され、その優位性等が説明された。その後米国のIoT事例がGEの飛行機用エンジンやZipcarの例が説明された。

●パネルディスカッション

モデレータ 廣田委員長

パネラー 講演者各位

参加者からの質問を基にパネラーが回答する形で議論がなされた。村田氏の講演の中で時間がなく説明されなかった、スマート工場だけではダメなのかについて説明がなされた。日本のカイゼンは工場内単体を見ることが多く日本からドイツの工場に視察に行っても目新しいカイゼンは見られないという感想が多い。ドイツのインダストリー4.0では、工場だけでなく生産前後の工程を含めたトータルの価値の向上を目指しているという事である。次に欧州の動向に日本はどのように対応したらよいかの質問で田中氏は欧州の標準化に対し、日本があまり標準化は得意ではないことに言及し、今後積極的に標準化に対応することで早く情報をつかみ対応していき、欧州市場に食い込むことが大事と説明された。



パネルディスカッションの様子

OSSの信頼性に関する質問に、廣川氏はOSSのコミッティーに積極的に参加することで担保していると回答。台湾でのIoT事情に関して、小池氏はアドバンテック社以外はまだまだあまり活発ではないと説明。短時間ではあったが中身のあるパネルディスカッションとなった。

今回のカンファレンスも多数の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。今後も国際委員会では皆様のお役に立てるようなテーマで活動してまいりますので、引き続きよろしくお祈いします。

講演資料は、国際委員会HPにUPしています。